

「オオオニバス」

（一話一人ヴァージョン）（は、後に一話二人ヴァージョンを付す）

前川 泰信

説明

本作品は、15分程度の短い話を連続させたオムニバス形式の演劇である。（オオオニバスとオムニバスを掛けたベタな駄洒落であることは言うまでもない）

人数に応じて、演じる役を分担してもかまわないし、一人がすべてを演じても構わない。基本的に一つの話は一人で演じられるようにしてあるが、必要に応じて人数を増やして演じてもよい。複数に演じるパターンは、最後に追加しておく。基本の展開は、「展覧会の絵」の有名な音楽を各話の間において、いちいち青色の暗転をし、照明がついたら次の話にいくというものである。各話のイメージはホリゾントを染め分けることで基調を作るものとする。また、必要に応じて上からスポットで抜く。舞台上に置かれた葉の上で演技するので、動きはあまり多くないが、すべての葉に照明を絞ることはできないので、効果を考えて使用する。どの話が、どの位置の葉の上で演じられるべきかについては、役者が実際に動いてみた上で決定していく。

さて、内容であるが、読んで分かるように「戦争と平和」である。9・11の同時多発テロ、それに関わるイスラエルとパレスチナの対立、沖縄の基地問題、などを、日本の日常生活に滑り込ませて描くことを目的としている。テーマとしては通じているが、どの話が重要という順位付けはしていないので、演じる人数や時間に応じて、話を削ってもよい。また、演出の考えるように順序を変更してもよい。全話をゆっくり演じて、六分をかなり切るようになっていくはずである。ちなみに、が付いているものは、セリフを全て覚えなくても、全部もしくは一部を読みながら演じることが可能。

幕開け。

緞帳が上がり始めるのと同時に、ムソルグスキー「展覧会の絵」の「プロムナード」が流れる。この曲は、各話の間にすべて流れるが、フルで流れるのは、この最初の一回だけである。あとの話の間に流れるのは、最初の何小節かで切った短いものを何秒か流すにとどめる。役者の移動に必要な時間がかせげればよい。

緞帳が上がると、直径一メートルくらいの緑色の丸いものが、舞台上に十個以上点々と置いてある。「オオニバス」という水面に浮く植物の葉である。（よく子どもが上にのった写真をみかけるやつ）

下手から、その葉の上を飛び移りながら、役者が登場。曲の終わりあたりで、真ん中の葉の上に立つ。

プロローグ

役者、正面を向き、真ん中の葉の上に置いてあつた植物図鑑を拾い上げて読む。

「オオニバス。スイレン科オオニバス属の植物。南アメリカ、アマゾン地方原産の水草。睡蓮の仲間で、水面に大きな葉を広げる。一枚の葉の直径は、2メートルを超すものもあり、世界一巨大な葉を付ける被子植物として知られる。葉は、縁が反り、たらい状になっていて、小さな子供ならその上に乗ることも可能である。朝日百科『植物の世界』第9巻より」

青転。

音楽の間に、役者は別の葉に移動する。または、下手に引っ込んで、別の役者が上手から出てくる。明転。

第一話

役者、葉の上で正面を向いて話す。正面に母親がいる想定での対話。

お母さん、実は話があるの。聞いてくれる？ 驚かないでね、実は今日、お別れなの。

ううん、彼の仕事について行くわけじゃないの。そりゃあ、彼のことはとっても大切だけど、お母さんを置いてかなきゃいけないわけじゃないわ。ほんのしばらく待ってれば、仕事も終わって帰ってくるし。

私がお別れするのは、それよりもずっとずっと大切な用事なのよ。黙って待っていてもなんともならないことなのよ。

私、実は正義の味方なのよ。悪と戦うために選ばれた者なの。

お母さん、私たちの生活から平和が失われてずいぶん経つわね。全部、あの悪の組織のせい。やつらのために、私たちはいつまでもいつまでもおびえて暮らさないとけない。

もう、こんなことを終わらせなければいけないの。分かるでしょ。

黙っていてごめんなさい。昨夜、出勤命令が下ったのよ。だから私、行かなきゃならない。

泣かないで、お母さん。たしかにそうよ。私じゃなくてもいいのかもしれない。彼の仕事が終われば結婚が待っている私じゃなくても。

でも、考えたのよ。生まれてからこんなに深く深く考えたことがないくらい考えたの。彼と結婚して、子どもが生まれて、育っていく。あいかわらず、やつらの魔の手におびえながら。そんなのは絶対いやなの。私の子だけじゃない、これから生まれてくるすべての子どもたちがこんなつらい世界で育っていく。間違ってるよね。今変えなければいけないと思うの。

そう、私が死ねば、私の子どもはこの世に生まれない。けれど、それでほかの数え切れないほどの子どもたちの未来が平和になるのなら。

もちろんよ、不幸になりたいわけじゃない。でも、私はしあわせを求めちゃいけないのよ、それが選ばれた正義の味方なの。

それじゃ、お母さん、いつてきます。悪と戦ってきます。泣かないで、お母さん。私は、みんなの中で、お母さんの中で永遠に生き続けるわ。だから、私のことは心配しないで。

役者、正義のヒーローの変身ポーズをとる。なにか、変身の決めセリフみたいなのを発してもよい。

変身の効果音がして、ストップモーション。そのポーズに、ラジオのニュースのアナウンスがかぶる。

ニュースをお伝えします。今日、日本時間の未明、イスラエル北西部ネタニヤで自爆テロがありました。現場は商店街の中央付近で、買い物籠の中に隠し持った爆弾を破裂させたものとみられます。実行犯とみられる遺体も見つかっており、十七歳の少女であると伝えられています。この爆発により、5人が死亡、約90人が負傷しました。イスラエルでの自爆テロは3ヶ月ぶり、パレスチナ自治政府と過激派各派がイスラエルとの一時停戦に合意してからは初めてとなります。ロイター通信によりますと…
(アナウンス、フェイドアウト)

青転。

音楽の間に、役者は別の葉に移動する。または、下手に引っ込んで、別の役者が上手から出てくる。
明転。

第二話

役者、葉の上に置いてある封筒を拾い上げ、中の便箋を取り出し読み始める。

拝啓

十一月を迎え、吹く風にも空の雲にも秋の深まりを感じるようになってきました。そちらはそろそろ冷え込んでくる時期だと聞いています。それに比べれば、こちらはずっと暖かいのですね。いかがお過ごし

しですか。

お返事がなかなかもらえないので、失礼とは思いますが、またお手紙を書きます。

ずいぶん以前から、私の家には知らない人が何人も住み着いてしまいました。家の中の一番いい部屋に陣取ってしまったていて、動いてくれません。おかげで私たちは、自分の家なのに、日当たりも風通しも悪い、隅っこの方の部屋を窮屈な思いをして使わないといけません。

あの人たちは、普段はとても明るくて、気さくない人なのですが、時折、機嫌が悪くなったりすると、私たち家族にひどいことをします。この間も、小さな妹が被害に遭いました。そのたびに強く抗議をするのですが、彼らには何かとても大きな後ろ盾があるらしく、滅多に謝ってくれませんか、補償がされることもありません。

お父さんやお母さんに、「あの人たちに出て行ってもらおうよ」と何度言っただかわかりません。二人とも、迷惑な気持ちは同じだと思うのですが、お父さんの今の仕事は、あの人たちの紹介でもらえているとのことで、なかなか強く言い切れないのだと言います。ある日いきなり出て行かれても、家計が困ってしまうとお母さんも言っています。

でも、おばあちゃんは、「あの人たちが来る前は、たしかに貧しかったけれど、別にみんな飢えて死んでいたわけじゃない。なんとでもなるはずだ。」と言います。私はどう考えたらいいのか、迷ってしまいました。

そこで、繰り返しお願いします。全員とは言いません。あの人たちの一人でも二人でもいいからあなた

の家で引き取ってもらえませんか。もちろん、あの人たちが自分の居場所へ帰れたら、それが一番いいでしょう。あの人たちも、実はうちにいたくっているわけではありません。でも、どうしようもない事情で、いるしかないのなら、うちだけが引き受けているのは不公平だと思いませんか。

おじいちゃんの言うには、あの人たちがいることで、あなたたちも得をしているそうですね。うちのお父さんのように仕事をもらっているわけではないようですが、安心して暮らすための役に立っているとか聞きました。それなら、それぞれあの人たちの居場所を負担しあってもいいではありませんか。つらいことも多いのですが、いいこともあります。人間、慣れてしまえば、何とかなるものです。それでも嫌だと言われるのですか？ それなら、あなたがたがそんなに嫌がるものを自分だけが背負い込むのは、私たちの方も、もう嫌なのです。

お返事を待っています。

末筆ながら、あなたとご家族のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。それと、あなたたちとわたしたち、みんなのしあわせも。

敬具

沖縄県普天間市 上原とみえ

青転。

音楽の間に、役者は別の葉に移動する。または、下手に引っ込んで、別の役者が上手から出てくる。明転。

第三話

おもちゃ売り場で、動こうとしない子どもを、母親がなんとか移動させようと手を引っ張っている芝居。一人の場合は、無対象で演じる。子ども役を立てるヴァージョンは後に掲載。

ほら！ ちょっと動きなさい。もう十分見たでしょ。え？ 買わないわよ、絶対。同じようなおもちゃ、おうちにたくさんあるでしょう？ 高いものをいくつも買えないの。

安いのならいいかって？ 何、それ。ＢＢ弾？ 今おうちに持ってるの使いきってからにしないで。それならいくらでも買ってあげるから。今度は何？ 手品セット？ 鳩の出てくるやつ？ 要らないですよ、そんなの好きでもないくせに。

もう、そこに戻しなさいって、もういい加減にして！（強く引っ張る）ああ、もう！ 手、放さないから、落ちて壊れちゃったじゃないの。

（逆方向を見て）あ、お店の人？ （子どもを振り返って）黙ってなさい！ よけいなこと言わないの。（お店の人の方へ）駄目よ、こんな落ちやすいところに並べちゃ。けがしたらどうすんの？ 改善してね。意見箱に入れとくから！

（子どもを振り返って）いい？ 簡単に謝っちゃだめ。自分が悪いってことを認めたら、ぜーんぶ今までのことも間違いつてことになっちゃうの。たとえば、わたしたちの住んでるおうちは、昔、もともと住んでた人たちを無理矢理追い出したとこなの。そういうことから始まって、全部責められるのよ。そ

れじゃ、困るでしょう？ 明日から、みんなに威張れないでしょう？ だから、何をやっても、とにかく正しいって言い張るの。悪いのは全部相手ののよ。分かった？

ほらほら、もう泣かないの。強くなきゃ生きていけないのよ。あ、ほら見てごらん。あーんなにいっぱい、テレビがあるよ。こっちこっち。（しばらく見る）もういい？ じゃ、行くよ。お母さん、買いたいものあるから。サラダ油の特売。間に合わないからね。ほら、行くよって。もういい加減にしてよ、テレビならうちで見れるでしょう？

何、メキシコで銀行強盗？ よくあることよ、ほら、行くよ。何、フランスで飛行機事故？ それもある、ほら。何よ、え？ 中国で地震？ 分かった分かった、後でね。日本で首相が変わった？ 一番どうでもいい、そんなの。え？ ハワイで津波？ うーん（ちょっと迷う）、ま、特売が先ね。

ほら、立って！ 置いてくよ。いいの？ はいはい、走る走る。もう、どうか。（売り場に到着。正面を見て）ああ、売り切れだ！ 困ったなあ。あ、（子どもを振り返って）いい、あそこに置いてあるカート。あれに入ってる油、持ってきて。いいの！ お金払う前は、まだ誰のものでもないんだから！

いきなり青転。

音楽の間に、役者は別の葉に移動する。または、下手に引っ込んで、別の役者が上手から出てくる。明転。

第四話

役者、葉の上に置いてある当番日誌（黒表紙）を拾い上げる。二人ヴァージョンで行う場合は、途中に出てくる「音楽係」「委員長」「担任の先生」を別の一人が演じる。

起立、礼、おはようございます。昭和八十年十一月十二日 土曜日。朝の会を始めます。朝の歌を歌います。音楽係の人、指揮をお願いします。今日は、「蛍の光」の三番・四番を歌います。

つくしのきわみ みちのおく

うみやまとおく へだつとも

そのまごころは へだてなく

ひとつにつくせ くにのため

ちしまのおくも おきなわも

やしまのうちの まもりなり

いたらんくくに いさおしく

つとめよわがせ つつがなく

着席。連絡事項を読みます。

「一。社会の吉田先生からの連絡。ずっと前に出してあった宿題が、まだほとんど出ていません。急いで出してください。」

二。児童会の連絡。今日の昼休みに、校則の改正についての話し合いをしますので、議員の人は必ず多目的ルームに集まってください。その時に、九番目の校則についてのクラスの意見をまとめた紙を忘れずに持ってきてください。

三。今日は大掃除です。特に、水路の所にごみがこびりついているので、念入りに掃除しましょう。」

委員長が書いてくれた今日の目標を読みます。（黒板を振り返って）今日の目標は、「自分のクラスに誇りを持つ」とです。

先生のお話。今日は担任の先生が出張なので、メモを読みます。

「今年は、昭和がちょうど八十年になった節目の年です。十七年前に昭和が終わったと言う人もいますが、昭和は簡単に終わりません。みなさんの生年月日は平成生まれになっていますが、紛れもなく昭和の子です。この春も、靖国神社というところへ、どうしても参拝しなければいけないと思う人の主張と、参拝することが許せないという国の主張とがぶつかって、問題が起きましたね。六十年経っても原爆病で苦しんでいる人、六十年経っても日本軍の仕打ちに対しての補償を得られない人、そういう人たちも大勢います。本当にあったかどうか、論争が続いている戦争中の出来事もあります。昭和が終わっていないことがはっきり分かりますね。そういう昭和の問題の決着は、残念ながら、いくつかは君たちの手

に委ねられてしまいかもしれません。だから、みなさんにとっても昭和は終わっていないのです。みなさんはそういう時代に生きているのです。今年は昭和八十年。忘れないでください。」

これで、朝の会を終わります。起立、礼、着席。

青転。

音楽の間に、役者は別の葉に移動する。または、下手に引っ込んで、別の役者が上手から出てくる。明転。

第五話

役者、あぐらをかいて葉の上に置いてあった雑誌を見始める。葉の上に置いてあった携帯電話が鳴る。役者、それを拾い上げる。雑誌をめくりながら話す。

もしもし。あ、お父さん。何？ あー元気元気。お母さんちよつと出かけてる。ん？ 別に何もしてないけど。学校？ まあ普通。うん？ 部活はやめたって言ったじゃん、この前。何？（ちよつとの間相手がなかなか話さないの）別に用事ないなら切るけど。え？ 大事な話。じゃ、早く言やいいじゃん。いや、別に忙しくないけど、話すことないし。何？ よく聞こえない。泣いてんの!? どうしたの、お父さん。愛してるって、え？ バカじゃないの？ キモイよ、いきなり。どうしたのよ、一体。うん。

うん。うん。ええっ！（雑誌を落として立ち上がる）ほんと？ 冗談じゃないよね。どっ、どっ、どっ、どうしたらいい？ 大丈夫なの？ そっか大丈夫なわけないか。ねえ、どうしようどうしよう、お母さんいないし。あつ、警察に連絡すればいいのかなあ？ それとも消防署？ え？ どういうこと？ テレビ？ あ、テレビテレビ。（目の前の無対象テレビにリモコンでスイッチを入れる）、あつ（しばらく見つめる）これ何？ 建物燃えてるけど。ああ、一機目が突っ込んだのがこれなんだ。え、じゃあ、お父さんの飛行機、ここに向かっているの？ うそ、どうして？ だってこれ、アメリカであったのとおんなじじゃん。え？ ほかの国でも似たようなことがあった？ そうだった？ でも関係ないじゃん、うちら。なんでお父さんがこんな。いやだよ、お父さん！ お父さん！ うん？ 落ち着けるわけないじゃん！ ねえ、死なないで！ 私たちこれからどうしたらいいのよ！ でも。だって。…うん。聞くよ。うん、しっかり聞くから。うん。うん。そうする。うん。うん。絶対、忘れないから。うん…。うん…。（後は無言でしばらくうつなづく）あ、（テレビ画面に釘付けになる）いや、お父さん、お父さん、お父さん！ イヤー！…！ （画面を見つめてしばらく茫然自失する。やがて携帯に向かって）愛してるよ。愛してる。ねえ、返事して。愛してる！」

とてもゆつくり青転。

音楽の間に、役者は別の葉に移動する。または、下手に引っ込んで、別の役者が上手から出てくる。

インターミッション

音楽の間に、役者がいきなり、移動をやめ、正面に向かって呼びかける。

ちゃん！ ちよつとごめん。音止めて。

音響ストップ。明転。役者、照明室に向かって呼びかける。

ちゃん、ちよつと顔出してくれる？

照明の窓を開けて、照明係顔を出す。「なに？」 役者呼びかけて、

役者 あのださあ、これ、ほんとに最後までやんの？

照明 何言ってるの。本番だよ？

役者 いや、だからさあ。なんか、観客が急速に寝てくのが、ここから分かんよ。

照明 あ、そうなんだ。

役者 こういうの、たぶんみんな興味ないと思うんだよね。

照明 そうだね。

役者 そう思うと、やってるキャストはかなりつらいわけよ。

照明 ま、分かるけどさあ。始めちゃったんだから、やりきるしかないんじゃないの？

役者 えー。

照明 はつきし言って、私ら自身が興味ないけどさ。

役者 だよな。

照明 でも、無視したまんまでいい話でもないじゃん。

役者 やっぱり？

照明 なんかさ、こういうのって、絶対必要だって！

役者 そうかなあ。

照明 がんばれ。

役者 はい。（音響に） ちゃんごめん。じゃ、音、もう一回お願い。

改めて青転。

音楽の間に、役者は別の葉に移動する。または、下手に引っ込んで、別の役者が上手から出てくる。
明転。

第六話

激しいテンポで音楽が鳴り響く。役者は髪を振り乱して、ノリノリで踊り続ける。それにかぶさって、ニュースが流れる。

七時になりました。ニュースをお伝えします。まず最初のニュースです。今日、午前十一時四十六分ごろ、東北地方で大きな地震がありました。震源地は宮城県沖で、震源の深さは約四十二キロ、地震の規模を示すマグニチュードは7・2と推定されます。この地震で、六十人が重軽傷を負い、プールの屋根が落ちるなど、建物などにも大きな被害が出ました。

次のニュースです。スリランカの外相が暗殺されました。次のニュースです。今日午後四時半頃、宮城県登米市の米山駐在所で、男子警部補が、中学三年生の少年に背中や頭などを数力所刺されました。警部補はその場で少年を取り押さえ、殺人未遂と公務執行妨害で現行犯逮捕しました。（などと、その上演に近い時期に起きた内外のニュースを、時間いっぱい取り上げる）

曲の終わりと共に、ニュースも終わる。踊り終えた役者は、満面の笑顔で正面に向かってピース。

ピース！ 愛し合ってる？

青転。

音楽の間に、役者は別の葉に移動する。または、下手に引っ込んで、別の役者が上手から出てくる。明転。

第七話

役者、葉の上に置いてあった作文用紙を拾い上げる。ゆっくりと子どもの口調で読む。

「おばあちゃんから戦争体験を聞いて 六年三組 水野ゆうき

夏休みの宿題で、おばあちゃんから戦争のお話を聞きました。

おばあちゃんが子どもの頃、とても戦争が激しくて、よく空襲警報というのが出たそうです。空襲というのは、アメリカの飛行機が日本の空まで飛んできて、焼夷弾という爆弾を落としていくのです。そのたびに、防空壕に隠れて、飛行機が行ってしまうまでじっとしていたそうです。

一度、おばあちゃんは防空壕に入るのが遅れて、道を走っている途中で、目の前に焼夷弾が落ちてきました。とてもこわいなあと思いました。

夜になって電気をつけると、灯りが外から見えて爆弾を落とされるので、電灯の周りに黒い布を巻いて、光がもれないようにしていました。

学校も、戦争のせいでほとんど勉強ができなかったそうです。学校でやったことは、勤労奉仕と、軍

事訓練でした。勤労奉仕というのは、食糧が足りないので、校庭を耕して芋を作ったり、飛行機などの部品を作る工場で働いたり、ほかにいろいろな戦争に協力するための仕事をすることです。軍事訓練というのは、敵が来た時に戦えるように、竹槍で相手を倒す練習をしたり、空襲で焼けた時のために水を運ぶ練習をしたりすることです。

おばあちゃんのお兄さんは、予科練というところに入って、爆撃機の操縦をしていました。戦争が終わりになる頃に、飛行機ごと敵にぶつかって戦死したそうです。

おばあちゃんは、一生懸命いろいろな話を聞かせてくれました。全部は書けないくらい、たくさんのお話でした。おばあちゃんがすごく聞いてほしいと思っっていることがとても伝わってきました。「平和はすごく大事だよ。もう絶対に戦争をしちゃいかんよ。」と何度も言っていました。

先生に怒られるかもしれないけど、私はおばあちゃんのことかとてもうらやましいと思いました。戦争の話をするおばあちゃんは、いつもより真剣で、きらきらしているようでした。自分にはおばあちゃんみたいに、一生懸命にどうしても伝えたいこともないし、命をかけて何かをやったこともありません。高学年になってからは、頑張る気持ちが少しずつ減ってきました。毎日が同じことの繰り返しで、これからずっと似たような日が続くと思うと、気持ちが沈んでしまうこともあります。孫ができて、おばあちゃんのように話せることは何もないと思います。戦争でつらい思いはしたくないけど、おばあちゃんみたいに、何があるかわからないドキドキした毎日を、必死にきらきらして生きてみたいと思いました。」

青転。

音楽の間に、役者は別の葉に移動する。または、下手に引っ込んで、別の役者が上手から出てくる。明転。

第八話

役者、椅子を持ってくる。無対象の生徒と面談をする教員。斜め前を向いてひざに面談簿（黒表紙）を置き、座って話をする。

じゃあ、まあ座ってちょうだい。なんで呼ばれたかわかるわね。え？ 分からないわけはないでしょう。あなたねえ、いい加減わがままをやめなさい。いい？ クラスでせっかく頑張って学園祭にいいものを出そうと話合っているんでしょ。意見を出すのはいいわよ。出し物に関する好き嫌いがあるのも、それは仕方ないと思う。人間だからね。

だから、そういう感情の問題も含めて、長く話し合いを続けているんでしょう。で、それぞれに好みはあるけれど、予算の問題や、みんなの活躍の場があるかどうかってことをいろいろ検討して、だんだんにあのお芝居をやる方向に固まってきたんじゃない。

それなのに、何？ るくに話し合いにも参加していなかったくせに、いきなり「そんな俺はいやだ」。

みんながどうしてかって聞いてるのに、とにかくいやだの一点張り。それじゃ、何考えてるかさっぱり分からないでしょう。話し合いのルールを無視してることになる？ どうなの？

：また、だんまり？ だまつてるんなら、ずっとだまつて自分の仕事をすればいいじゃない。それなのに、あなた、なんて言った？ 「これをやるんだったら、絶対俺が邪魔してできないようにしてやる。」そんな言いぐさがある？ あなたは、間違っただけをやるって宣言してるのよ。間違っただけをやらせたくないければ、こっちの思う通りにしろって、そんな馬鹿な理屈がどこにある？

あんまりあきれたから、みんな話し合う気力なくなっちゃったでしょう。せつかく担任なしで話し合いが盛り上がったのに、台無しじゃない。

仕方がないから、今の発言だけは撤回しなさいって言ったら、「絶対に邪魔する」って言い張ったわね。それじゃ、あなたをクラスに置いとくこと自体ができなくなるでしょう？ いいの？ このクラスにいらなくなっても。何とか言ったらどうなの？ (ためいき) ああねえ。無理矢理妥協しろって言うてるわけじゃないの。ただ、ちゃんと話し合わなきゃ、前に進めないでしょう。あなたにとっては、この世界にあなただけ、ほかは全部服従するのが理想みたいだけど、そういうわけにはいかないのよ。この前も、人の筆箱からシャーペンやら、消しゴムやら、あっちこちから勝手に取り出して、自分の筆箱に入れてたでしょう？ あなたが持つてるんじゃないのって言っても、絶対知らないって言い切って、それなら見せてって筆箱開けたら、他の人のがそろそろ出てきたでしょう。しかも、あなた、それに自分の名前書いてたわよね。持ち主に返したら、あなたひどく怒ってたけど、こういう神経してるの？

え？ なんとか言ったらどうなの？ ちよ、ちょっと、待ちなさい！ どこ行くの！
(ためいき) どうしたらいいのかしら？

青転。

音楽の間に、役者は別の葉に移動する。または、下手に引っ込んで、別の役者が上手から出てくる。

明転。

第九話

役者は、抜き足差し足で葉を移動しようとして、誰かに呼び止められ、振り返る。

はい！ お母さん、何。え？ 何も忘れてないと思うけど…。ああ、そうだった、そうだった。そういや、今日終業式だったねー。んー、まあ、見せてもいいけど、お母さん、このところ、調子悪いって言ってたからさあ、あんまりショック与えてもって思って…。あーはいはいはい。どうぞ、ご覧下さいませ。

(間) いや、だから、見ない方がいいよって。はいはい、ごめんなさいごめんなさい。次から頑張ります。いや、でも、ここ見てよ。これ、ぐぐつと上がってるでしょ。そこところ、認めてもらってもいいかなあって。うん、まあ、数学なんか、進学には何の役にも立たないけど、でも、楽しいんだよ？

やってるうちに時間忘れちゃう。本当に、数の世界って美しいんだから。

そりゃあ、体育頑張れる人はバリバリに進学して、将来は幹部候補生ってところだろうけど、別にそんなエリート人生だけがいいわけじゃないと思うよ。いや、逃げてるつもりはないけど、でも、頭使うことだって、社会の役に立つはずだよ。あたしは、突撃練習の時だって、ついついひるんじゃないし、戦闘シミュレーションの心理テストだって、どうしても敵に対して残酷になりきれないし、それって駄目なのは分かってるけど、どうしようもないのよ。

努力が足りないって、先生もお母さんも言うけど、体も心もなかなか変えられないの。はっきり言っちゃうと、変える努力自体、あんまりやりたくないの。根っからの怠け者なのかもしれないけど、ランニングしたり、ベンチプレスしたりするより、計算問題解いてる方が好きなのよ。

数学の先生が言うの。「君たちの勉強してるものの中で、数学だけは変わらないものなんだ」って。うん、つまりね。時代が変わったり、国が変わったりすれば、ほかの科目の内容ってどんどん変わってしまうじゃない。スポーツのルールもトレーニング方法も変わっちゃうし、科学だって新発見によって教科書の内容が変わるでしょ。でも、数字だけは変わらないのよ。ね？　すごいでしょ。どこの国でも、どんな未来でも、宇宙人が見たって、三角形の内角の和は一八〇度だし、円周率は果てなく数字が続くのよ。それでね。その先生は言うの。「どんなに憎むべき敵だと言われている国の人であっても、数学は差別をしない。数学をやる人間にとっては、どんな人でも友達だ。」って。うち、進学校で、数学なんて必要ないって思ってる人がほとんどだから、みんな真面目に聞かないけど、そういう話を繰り返すの。

でも、昨日なんかひどかった。先生の話の途中で、一番よくできる子が立ち上がって、こう言ったの。

「先生、変な考えを吹き込むのはいいい加減やめてください。敵は敵です。敵に勝って国を繁栄させるために、僕たちは勉強してるんじゃないですか。僕たちには迷いは禁物なんです。先生、先生は教師を辞めるべきです！」

え？　お母さんもそう思うの？　そうなんだ。私がおかしいのかなあ。うん。よく考えます。これからなんとか頑張るから。で、今日のおやつ何？

青転。

音楽の間に、役者は別の葉に移動する。または、下手に引っ込んで、別の役者が上手から出てくる。

明転。

第十話

役者、正面に向かって、アカペラでゆっくり歌う。

しゃばんだまとんだ

やねまでとんだ

やねまでとんで

こわれてきえた

しゃぼんだまきえた

とばずにきえた

うまれてすぐに

こわれてきえた

なぜかぜふくな

しゃぼんだまとばそ

メモをとりだして読む。

しゃぼん玉。野口雨情作詞、中山晋平作曲。

野口雨情は、結婚して八年間子どもができなかった。待望の長女、みどりが北海道の小樽で生まれたのは、明治四一年（一九〇八年）のことだった。しかし、みどりは生まれてわずか八日目にインフルエンザで肺炎をおこして亡くなった。やっと授かった初めての子を突然失った野口雨情の心の痛手は想像するにあまりある。

現在、全世界で5歳の誕生日を迎えることなく亡くなる子どもは、一年間に一、一万人。これは、日本の東北地方を全て合わせた総人口、九八万人をはるかに超えている。そのうちの七五%をサハラ以南のアフリカと南アジアの子どもたちが占める。死因の半分は、肺炎・下痢・はしか・マラリアといった病気である。多数が亡くなる地域では、安全な飲み水が確保できないなど衛生環境の劣悪さと、医者数の不足が、顕著である。

また、戦争の起きている地域で真っ先に犠牲になるのも子どもたちである。イラクでは、戦争以前から5歳未満の子ども百万人以上が栄養不良状態にあったが、爆撃開始によって、そのうちの多くの命が失われた。

豊かな先進工業国においては、虐待が深刻化している。先進国では、毎年三、五万人の子どもが虐待によって死亡しているとの報告もある。

なぜかぜふくな

しゃぼんだまとばそ

青転。

音楽の間に、役者は別の葉に移動する。または、下手に引っ込んで、別の役者が上手から出てくる。明転。

エピソード

役者、正面を向き、真ん中の葉の上に置いてあった植物図鑑を再び拾い上げて読む。

「オオオニバスに関する解説追加。オオオニバスの群生する水域にボートで入り込むと、あまりの大きさに自分が小さくなってしまったような錯覚に陥ってしまう。接近して葉をつまむと、ビニールのようなツルツルした手触りであるが、裏側に手を伸ばすと大きなトゲがチクチクと刺さる。

ほとんどの図鑑には、この浮力の強さだけが強調されているが、もちろん大人が乗れるほどの浮力はなく、支えられるのは三 キログラム程度。葉の上がきわめて不安定であることは言うまでもない。

一八 一年に発見されて以来、イギリスでの栽培が試みられたが、花を咲かせるのに成功したのは約五十年後であった。最初の花は当時のヴィクトリア女王に贈られた。この植物の名、「ヴィクトリア・レギア」は、女王の名にちなむ。花は夜に開き、直径約三十センチで白色、バナナのような香りを放ち、二・三日咲き続ける。二日目からはピンク色を帯びてきて、一日目とは別の花のようになる。」

役者、隠し持っていた花の模型を客席に示す。同時に音楽が鳴り綴帳下りてくる。幕。

の別ヴァージョン集

第一話（二人バージョン）

AとB、別々の葉の上で、斜め前を向いて対話。Bは登場の際に椅子を持ってくる。それに座って、編み物をしている。A、立って、すばらくその様子を眺めているが、意を決して話しかける。

A お母さん

B ん？

A 実は話があるの。聞いてくれる？

B なんだい、あらたまつて。

A 驚かないでね、実は今日、お別れなの。

B え？

A 本当なのよ。お別れなの。

B お別れって、もしや、おまえ、あの人について行くのかい？

A ううん、彼と行くわけじゃないの。そりゃあ、彼のことはとっても大切だけど、お母さんを置いてついて行かなきゃいけないとは思わないわ。

B 私のことなら、いいんだよ？

A ほんのしばらく待っていていれば、仕事も終わって帰ってくるし。

B それじゃあ、一体？

A 大切な用事があるの。

B 大切な用事？

A そう、黙って待っていてもなんともならないことなのよ。

B …。

A 私、実は正義の味方なのよ。

B ええ？

A 悪と戦うために選ばれた者なの。

B 何を言ってるんだい？

A お母さん、私たちの生活から平和が失われて、どのくらい経つ？

B さあ、平和なんて、知ってる人間はこのへんにやいないよ。

A そうよね。安心して暮らせる時なんて、一瞬もないわ。それは全部、あの悪の組織のためよね。やつらのために、私たちはいつまでもいつまでもおびえて暮らさないとイケない。

B いつ何が起こつても、不思議じゃないからねえ。

A もう、こんなことを終わらせなければいけないの。分かるでしょ。

B 終わらせる…。

A そう。実は、昨日の夜、出勤命令が下ったのよ。だから私、行かなきゃならない。

B おお、そんな…。(顔を伏せる)

A 泣かないで、お母さん。

B なにも、お前じゃなくても。もうすぐ結婚だというのに。

A そうかもしれない。でも、私、考えたのよ。生まれてからこんなに深く深く考えたことがないくらい考えたのよ。彼と結婚して、子どもが生まれて、育っていく様子を。私の愛しい子が、あいかわらず、悪の魔の手におびえながら生きていくのよ。それは耐えられないことだわ。

B それは、悲しいことだけど。

A 私の子だけじゃない、これから生まれてくるすべての子どもたちが戦いの毎日を生きていくの。

それを今変えなければ。私が死ねば、私の子どもはこの世に生まれなければ、ほかの数え切れない子どもたちの未来がそれで平和になるのなら。

B でも、そのためにお前が不幸になるというのかい？

A 不幸になりたいわけじゃない。でも、私はしあわせを求めちゃいけないのよ、それが選ばれた正義の味方なの。

B 正義の味方…。

A それじゃ、お母さん、いつてきます。世界を救うため、悪と戦ってきます。泣かないで、お母さん。

私は、みんなの中で、お母さんの中で永遠に生き続けるわ。だから、私のことは心配しないで。

役者、正義のヒーローの変身ポーズをとる。変身の効果音がして、ストップモーション。そのポーズに、ラジオのニュースのアナウンスがかぶる。

ニュースをお伝えします。今日、日本時間の未明、イスラエル北西部ネタニヤで自爆テロがありました。現場は商店街の中央付近で、買い物籠の中に隠し持った爆弾を破裂させたものとみられます。実行犯とみられる遺体も見つかっており、十七歳の少女であると伝えられています。この爆発により、5人が死亡、約90人が負傷しました。イスラエルでの自爆テロは3ヶ月ぶりで、パレスチナ自治政府と過激派各派がイスラエルとの一時停戦に合意してからは初めてとなります。ロイター通信によりますと…
(アナウンス、フェイドアウト)

第三話 (二人ヴァージョン)

おもちゃ売り場で、動こうとしない子どもBを、母親Aがなんとか移動させようと手を引っ張っている芝居。

A ほら！ ちょっと動きなさい。

B やだ、おもちゃ見る。

A もう十分見たでしょ。

B これ、買って。

A 買わないわよ、絶対。うちはあんまりお金ないの。

B これ、安いから買って。

A 何、それ。

B B弾。バンバンて鉄砲撃つの

A 今持つてるの使ってからにしないさい。それなら買ってあげるから。

B じゃあ、こつち。持っていないから。

A 手品セット？

B 鳩の出てくるやつ。

A 要らないでしょ、そんなの好きでもないくせに。

B やだ、好きだもん。

A もう、そこに戻しなさいって。

B やだ、ほし。

A もついい加減にして！（強く引っ張る。おもちゃが落ちて壊れたのを、二人見つめる。）

B （泣きそうな顔）

A ああ、もう！ ほら、壊れちゃったでしょう？（逆方向を見て）あ、お店の人？

B ごめんなさい。

A （子どもを振り返って）黙ってなさい！（お店の人の方へ）駄目よ、こんな落ちやすいところに並べちゃ。けがしたらどうすんの？ 改善していてね。意見箱に入れとくから！

（子どもを振り返って）いい？ 簡単に謝っちゃだめ。自分が悪いってことを認めたら、ぜーんぶ今までのことも間違いつてことになっちゃうの。たとえば、わたしたちの住んでるおうち、昔、もともと住んでた人たちを無理矢理追い出したとこなの。そういうことから始まって、全部責められるのよ。それじゃ、困るでしょう？ 明日から、みんなに威張れないでしょう？ だから、何をやって、とにかく正しいって言い張るの。悪いのは全部相手なのよ。分かった？

B （泣きじゃくりながら）分かった。

A ほらほら、もう泣かないの。強くなきゃ生きていけないのよ。

B うん。うん。

A あ、ほら見てごらん。

B あー、いーっぱい、テレビがある。

A すごいねえ。(しばらく見る) もういい? じゃ、行くよ。

B もうちょっと。

A お母さん、買いたいものあるから。サラダ油の特売。

B お母さん、油、よく買うね。

A いいの。ほら、行くよ。

B もうちょっと。

A もういい加減にしてよ、テレビならうちで見れるでしょう?

B あ、ほら、メキシコで銀行強盗だって。

A よくあることよ、ほら、行くよ。

B 今度は、フランスで飛行機事故。

A それもあるある、ほら。

B 中国で地震だよ。

A 分かった分かった、後でね。

B 日本で首相は変わったって。

A 一番どうでもいい、そんなの。

B あ、ハワイで津波。

A え? うーん(ちょっと迷う)、ま、とにかく特売。ほら、立って! 置いてくよ。いいの?

B やだ。

A はいはい、走る走る。もう、どうかな。(売り場に到着。正面を見て) ああ、売り切れだ! 困ったなあ。あ。(子どもを振り返って) いい、あそこに置いてあるカート見える?

B うん。

A あれに入ってる油、持ってきて。

B いいの?

A いいの! お金払う前は、まだ誰のものでもないんだから!

第六話（二人ヴァージョン）

激しいテンポで音楽が鳴り響く。役者Aは髪を振り乱して、ノリノリで踊り続ける。しばらくして、役者Bが、上手から登場。葉の上をいろいろ移動しながら、子どもを抱えて訴えて歩く。

どなたか、お願いします。子どもが病気なんです。ワクチンがあれば助かるそうです。どなたか、どなたか、助けてください。お願いします。どうかお願いします。このままでは死んでしまいます。どうか、どうか。（と、三力所くらいの葉の上で、見えない相手に懇願する。）

（踊っているAの横の葉に乗って）助けてやってください。とてもいい子なんです。毎日毎日、家族のために、十キロも離れた場所まで水汲みに行ってくれています。子どもの足だと往復で二時間もかかります。それを、日に何度も往復して運んでくれます。水を入れた桶は、この子の肩に容赦なく食い込みますが、この子は愚痴一つこぼしません。毎日毎日、黙々と水を運んでくれます。

学校には行っていない。教育を与えてやりさえすれば、この子もこんな生活から抜け出す糸口をつかめるかもしれませんが、水汲みに時間をとられてそれどころではありません。第一、内戦続きで学校制度を整える力が、政府にはないのです。

でも、この子も生きていさえすれば、いつかしあわせをつかめるかもしれません。今ここで死なずにすめば、どんないいことが待っているか分かりません。どうか、どうか、ワクチンをください。あなたの持っているあふれるほどの財産のほんの一部で、この子の人生の何十年かが救われるのです。

わたしたちは、多くを望みません。テレビ？ コンピュータ？ 携帯電話？ もちろん、そんなものはいりません。きれいな服も、舌をとるかす食事も、温度を調節できるような家もありません。ただ、雨露がしのげる屋根と、死なずにすむだけの水や食糧と、地雷の埋まっていない地面と、そういう明日も明後日も命が続いていく生活ができれば、それは私たちにとっては天国の日々です。なぜ、私たちにはそれがなく、あなたたちにはありませんか。どうか、どうか、そのありすぎる中の一部をこちらへ向かって投げてください。この子も、そして同じような数多くの子たちも、たったそれだけで助かるのです。どうか。どうか。

（子どもの様子にハッと気づいて）ああ！ しっかりして。今助けてやるから。私の子！ いとしい子！ 世界にたった一人の子！ ああっ！

Bの言葉と共に曲は終わる。踊り終えたAは、満面の笑顔で正面に向かってピース。

A ピース！ 愛し合ってる？

第八話（二人ヴァージョン）

役者A・Bそれぞれ椅子を持ってくる。生徒と面談をする教員。Aは、ひざに面談簿（黒表紙）を置き、お互いに向き合って座って話をする。

A じゃあ、まあ座ってちょうだい。

B （座る）

A なんて呼ばれたか分かるわね。

B さあ。

A 分からないわけではないでしょう。

B …。

A あなたねえ、いい加減わがままをやめなさい。

B わがまま？

A いい？ クラスでせっかく頑張って、学園祭にいいものを出そうと話合っているんでしょ。

意見を出すのはいいわよ。出し物に関する好き嫌いがあるのも、それは仕方ないと思う。人間だからね。だから、そういう感情の問題も含めて、長く話し合いを続けているんでしょ。どう？

B はい。

A で、それぞれに好みはあるけれど、予算の問題や、みんなの活躍の場があるかどうかってことをい

ろいろ検討して、だんだんにあのお芝居をやる方向に固まってきたんじゃない。

B でも…。

A それなのに、何？ るくに話し合いにも参加していなかったくせに、いきなりあなた何て言った？

B 「そんなのいやだ。」

A そうよね。で、みんながどうしてかって聞いているのに、とにかくいやだの一点張り。

B だって、いやだから。

A 理由を言わなきゃ、何考えてるかさっぱり分からないでしょう。話し合いのルールを無視してることにならない？ どうなの？

B …。

A また、だんまり？ だまつてるんなら、ずっとだまつて自分の仕事をすればいいじゃない。それなのに、あなた、さっきなんて言った？

B 別に。

A 別にじゃないでしょ。「これをやるんだったら、絶対俺が邪魔してできないようにしてやる。」

あなた、そう言ったのよ。そんな言いぐさがある？

B だって、いやなことに決まっちゃいそうだから。

A あなたは、間違ったことをやる、迷惑をかけてやるって宣言してるのよ。間違ったことをやらせたくなければ、こっちの思う通りにしろって、そんな馬鹿な理屈がどこにある？

B
…。

A あんまりあきれたから、みんな話し合う気力なくなっちゃったでしょう。せつかく担任なしで話し合いが盛り上がったのに、台無しじゃない。

B 台無しになった方がいい。

A 馬鹿なこと言わないで！ 仕方がないから、今の発言だけは撤回しなさいって言ったら、「絶対に邪魔する」って言い張ったわね。それじゃ、あなたをクラスに置いとけなくなるでしょう？ いいの？ このクラスにいらなくなっても。何とか言ったらどうなの？

B
…。

A (ためいき)あのねえ。無理矢理妥協しろって言うてるわけじゃないの。ただ、ちゃんと話し合わなきゃ、前に進めないでしょう。

B 話し合っても負けるだけだし。

A 勝ち負けじゃないの。この世界にあなただけが生きてるんじゃないでしょう？ あなたがお山の大将でほかは全部服従ってわけにはいかないのよ。

B そんなのやってみなけりゃ分かんないじゃん。

A 無理よ。この前も、人の筆箱からシャーペンやら、消しゴムやら、あっちこっちから勝手に取り出して、自分の筆箱に入れてたでしょう？ あなたが持つてるんじゃないのって言っても、絶対知らないって言い張って、それなら見せてって筆箱開けたら、他の人のがぞろぞろ出てきたでしょう。

しかも、あなた、それに自分の名前書いてたわよね。持ち主に返したら、あなたひどく怒ってたけど、どういう神経してるの？ え？ なんとか言ったらどうなの？

B (いきなり立ち上がって、上手に走り去る)

A ちょ、ちょっと、待ちなさい！ どこ行くの！ (ためいき) どうしたらいいのかしら？

第九話

Aは、抜き足差し足で葉を移動しようとして、Bに呼び止められ、振り返る。

B しおり！

A はい！ お母さん、何。

B 何か忘れてない？

A え？ 何も忘れてないと思うけど…。

B （にらむ）

A ああ、そうだった、そうだった。そういや、今日終業式だったねー。

B 出しなさい。

A んー、まあ、見せてもいいけど、お母さん、このところ、調子悪いって言ってたからさあ、あんまりショック与えてもって思ってた…。

B ごちゃごちゃ言わない。

A あーはいはいはい。どうぞ、ご覧下さいませ。（カバンから通知表を出して渡す）

B （通知表をにらんで無言）

A （間） いや、だから、見ない方がいいよって。

B 見なけりゃ、成績が変わるの？

A はいはい、ごめんなさいごめんなさい。次から頑張ります。いや、でも、ここ見てよ。これ、ぐぐっと上がってるでしょ。そこところ、認めてもらってもいいかなあって。

B 数学が上がってもねえ。

A うん、まあ、数学なんか、進学には何の役にも立たないけど、でも、楽しいんだよ？やってるうちに時間忘れちゃう。本当に、数の世界って美しいんだから。

B それもいいけど、まずは、体育でしょ。

A そりゃあ、体育頑張れる人はバリバリに進学して、将来は幹部候補生ってところだろうけど、別にそんなエリート人生だけがいいわけじゃないと思うよ。

B いつもいつもそんな屁理屈で逃げて。

A 逃げてるつもりはないよ。頭使うことだって、社会の役に立つはずだよ。

B そんなの一部の専門家だけよ。

A あたしは、突撃練習の時だって、ついついひるんじやうし、戦闘シミュレーションの心理テストだって、どうしても敵に対して残酷になりきれないし、それって駄目なのは分かってるけど、どうしようもないのよ。

B 努力不足ってことでしょ！

A 先生もそう言うけど、体も心もなかなか変えられないの。はっきり言っちゃうと、変える努力自体、

あんまりやりたくないの。ランニングしたり、ベンチプレスしたりするより、計算問題解いて方が好きなのよ。

B いい加減にしなさいよ！

A 数学の先生が言うの。「君たちの勉強してるものの中で、数学だけは変わらないものなんだ」って。変わらないもの？

A うん、つまりね。時代が変わったり、国が違ったりすれば、ほかの科目の内容ってどんどん変わってしまうじゃない。スポーツのルールもトレーニング方法も変わっちゃうし。科学だって新発見によって教科書の内容が変わるでしょ。でも、数字だけは変わらないのよ。ね？　すごいでしょ。

どこの国でも、どんな未来でも、宇宙人が見たって、三角形の内角の和は一八　度だし、円周率は果てしなく数字が続くのよ。

B そんなこと言う先生がいるの？

A それでね。その先生は言うの。「どんなに憎むべき敵だと言われている国の人であっても、数学は差別をしない。数学をやる人間にとっては、どんな人でも友達だ。」って。うち、進学校で、数学なんて必要ないって思ってる人がほとんどだから、みんな真面目に聞かないけど、そういう話を繰り返すの。

B みんな、それで黙ってるの？

A ううん、昨日なんかひどかった。先生の話の途中で、一番よくできる子が立ち上がって、こう言っ

たの。

「先生、変な考えを吹き込むのはいい加減やめてください。敵は敵です。敵に勝って国を繁栄させるために、僕たちは勉強してるんじゃないですか。僕たちには迷いは禁物なんです。先生、先生は教師を辞めるべきです！」

B その通りよ。その先生、かなり危ないわ。

A え？　お母さんもそう思うの？

B 誰が聞いたってそうよ。

A そうなんだ。私がおかしいのかなあ。

B 変な話に流されないで、将来のために何が一番大事か、考えなさい。

A うん。よく考えます。これからなんとか頑張るから。で、今日のおやつ何？